

北朝鮮は4月13日午前7時38分東倉里からミサイル1発を発射、1、2分程度飛行し上空約120キロで空中爆発、最終的に約20の破片に分解し黄海上に落下した。が、この事案に関しての日本政府の発表は午前8時23分となり、後に物議を醸し出す「空白の45分」が生じた。なぜか？「分らなかった」からである。高高度の迎撃を予想するあまり低高度の爆発は予想していなかったのだ。これを聞いて「またか！」と思ったのは私だけだろうか。実はこれとソックリなことが以前あったからである。

1942年4月18日午前8時19分、米海軍空母ホーネット艦載のドーリットル中佐指揮下のB25全16機が発進、茨城県から東京上空に侵入、午後12時15分に東京を空襲した。世に名高い「東京初空襲」である。しかしこの作戦は米軍にとって“失敗”に始まっていた。米軍は当初の予定では日本沿岸から400マイルの地点で爆撃機を発艦する予定であったのだが、日本海軍哨戒艇によって沿岸から600マイルの地点で「予定より早く」発見されてしまったのだ。つまり日本側が迎撃準備する時間は十分にあった。しかし、「米軍機は高高度を飛来」と判断していた日本軍は高高度のみを守備、“低高度侵入”して来た米爆撃機を取り逃がしたのだった。

図らずもこの4月であれから70年になる。“情報”に関して日本は何も学んでいない。聖書には

「あなたの御言葉は、私の足の灯火、私の道の光です。」詩篇 119 篇 105 節

とあるが、正に“神の言葉”である聖書こそが今を生き抜く為の最高の情報源であり、日本がいまだに“保有していない”高精度偵察衛星“のごとき役割を果たす。暗き道を照らすキリストの光を得、転ばぬ先の杖とし、未来に備えよう。

2012-4-19

